

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 2月 14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401830		
法人名	有限会社エス・ワイシー		
事業所名	グループホーム クベレ		
所在地	長崎県雲仙市小浜町金浜 422-2		
自己評価作成日	平成 24年 1月 10日	評価結果市町受理日	平成 24年 3月 1日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所 1階
訪問調査日	平成 24年 2月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームのリビングからは橘湾が一望でき 開放感がある。天気の良い日はテラスに出て、海を眺めながら お茶会やバーベキューを楽しむことができる。家庭的な雰囲気、食事もホームで作った野菜を使った料理や手作りおやつを心がけている。社協の温泉や足湯に出かけたり、季節々の行事を計画し、保育園児たちや慰問団体の方との交流も多く行っている。体力維持のため 毎日歩行訓練、テレビ体操などしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

島原半島の海岸線沿いに位置する当該ホームは、リビングの大きな窓から橘湾を望むことができる。ホームのすぐそばを選手が走る高校駅伝や市民マラソンでは、利用者が手作りの旗を持ち応援する姿が毎年恒例となっている。開設から数年が経ち、車椅子使用の方も増えたが、毎日、下肢筋力低下予防等の目的で立位や歩行訓練、テレビ体操を行うことでトイレ移乗などがスムーズに行えるようになってきている。ホーム内には「ゆったり介護」という言葉が掲示され、利用者も職員も楽しくゆっくりと過ごされている。利用者本位の細やかなケアが日々実践されており、今後も楽しみなホームである。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念に基づいた今月の努力目標を管理者、職員と共に決め、毎朝ミーティング後に復唱し、実践している。</p>	<p>法人の理念をもとに、職員全員で話し合っただけで決めた努力目標を掲げることで、意識して支援が行えるようになった。目標の評価は状況に応じて期間を伸ばし、振り返りを行っている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>家族会に近隣の方や自治会長、民生委員の方にも案内をし、参加して頂いている。自治会に加入している。</p>	<p>近隣には民家が少ないが、近くの保育園の運動会等の行事や地域の祭りに積極的に出かけている。ホームを園児が訪ねてくることもあり、子供達との交流の機会も多い。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>ボランティアや実習生を受け入れている。見学に来られた方などに認知症の対応法や介護法などを説明している。</p>	/	/
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催している。入居者の様子や行事の報告をし、包括支援センター職員、民生委員、家族の方々から、意見や情報を頂いている。</p>	<p>地域包括支援センター職員、民生委員、家族などの参加で、年に6回以上の開催を目標としている。参加者から、地域の行事の情報をいただくなど、質疑応答もあり、有意義な会議となっている。</p>	
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>小浜ケア会議に参加し、包括支援センターや他の介護施設の職員と共に事例検討や情報交換を行っている</p>	<p>旧小浜町の介護サービス事業所が集まる小浜ケア会議では、地域包括支援センターが主催、中心となり、事例検討や勉強会が活発に行われている。同業者間の交流や日頃の連携にも繋がっている。</p>	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>入居者の人権を守るため「拘束はしない」と決めている。拘束しなくてすむ方法を職員みんなで話合っている。</p>	<p>基本的に身体拘束はしない方針である。国道沿いのため、以前徘徊傾向にある利用者に対しては玄関に門扉を設置し、ドアの音で危険を察知するようにした。安全面を第一に考えた拘束排除の工夫がある。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>会議やミーティング等で話し合ったり、言葉使いや態度についても互いに注意し合っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会に参加している。包括支援センターや社協と連携しいつでも相談にのる用意はある。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>個々に説明し、理解・納得して頂いている。問題点や心配事があれば、その都度対応している。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の日常の様子や言葉から、本人の気持ちを察したり、面会に来られた家族に尋ねたりしている。要望等があれば、ミーティング等で話し合っている。</p>	<p>年に一度、年度初めに家族会を開催している。入居者の状況や、ホームの設備変更箇所など詳細に伝えることで家族の安心に繋がっている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図り、互いに意見等を言い合っている。ミーティングでも自由に意見・提案を出し、反映できるものは、反映している。</p>	<p>定期的に行われる職員ミーティングでは、職員が多くの意見を出し、実際に運営に反映されることが多数ある。最近では浴室の手すりを増やしたり、男性専用トイレの設置などがあった。</p>	

12	<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>毎朝のミーティングやスタッフ会議には必ず出席し、職員の勤務状況を把握している。休暇も取りやすく働きやすい環境づくりを心がけている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修会に出席させたり、ヘルパー2級取得の研修にも積極的に出している。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>雲仙市GH連絡協議会の一員となり、月1回程の施設長会議で意見交換や、職員の研修会参加を勧めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に家族から話を聞き、本人には興味のある話を持ちかけたり、他の入居者との交流を図ったりして、徐々に信頼関係を築くようにしている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族が求めていることを理解し、ホームとして出来ることを説明している。出来だけ面会に来て頂き、話をするようにしている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・家族の思いや状況を確認し、必要なサービスにつなげている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>昔ながらの料理の仕方や野菜の作り方など、入居者に聞いたり、一緒に作ったりしている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族会や面会時には必ず入居者の様子や気になることなど話して、状況を理解して頂いている。必要に応じて、面会や外出などお願いしている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの町並みや店に行ったり、お祭りなどの行事を見に行ったりしている。</p>	<p>本人の希望に応じて、以前住んでいた場所へのドライブや、市内のスーパーへ買い物に出かけることもある。また、家族支援で墓参りや法事へ行くこともある。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者の相性を考慮し、テーブルの席位置や乗車の組み合わせを決めている。互いに助け合ったり、話す場面が見られる。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他の施設や病院に移られる際は、当ホームでの状況を記したサマリーを渡している。たまに移転先の職員や家族に様子を聞くこともある。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の話しかけやケア時の入居者の様子などから、本人の希望・意向を把握し、スタッフ会議等で希望に沿うような方向で話し合っている</p>	<p>熱心に話を聴くことを大切にしており、日々の会話の中でその日に食べたものやしたい事を尋ねている。訴えが少ない方でも職員が密に関わることにより、意向の把握に繋がっている。</p>	

24	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの生活歴はほぼ把握している。出来るだけ入居者の望む生活環境を心がけている。</p>		
25	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>業務日誌、個人記録、毎日のミーティング等で入居者の状況を把握している。できる力があると思われることは職員で話し合い実践している。</p>		
26	10 <p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の日々の様子から伺える希望や意向を中心に、家族・職員の見解を取り入れながら介護計画を立てている。状況に応じて見直しをしている。</p>	<p>ミーティングの中で職員の意見を出し合い、担当者がそれをまとめてプランを作成している。日々の個人記録は、本人の意向や支援内容が記載されており、見やすく使いやすいものとなっている。</p>	
27	<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>業務日誌、個人記録、毎日のミーティング等で入居者の状況を記録・報告している。ミーティングやスタッフ会議で話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居者や家族の要望があれば出来るだけ対応している。(通院や送迎など)</p>		

29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議で、包括支援センターや民生委員等と情報交換をしている。また消防署や地域の消防団の協力も得ている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医の他、入居者・家族の要望があれば、他の医療機関にも通院介助を行っている。</p>	<p>本人・家族の希望があれば、入居前の継続受診も可能だが、ホームへの往診（週に1回）があることで協力医へ変更される利用者もいる。緊急時や状況変化時は、必ず家族へ連絡するようにしている。</p>	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週に1回 専従の看護師が入居者の健康状態を診に来ている。職員が日々の様子を報告し、助言をもらっている。緊急時はすぐ駆けつけてもらっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医師や相談員の話が家族と一緒に聞いたり、相談をしている。また入居者が安心できるように努めて面会に行くようにしている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り指針を定め、入居時に家族に説明している。本人、家族、主治医と話し合いながら行うつもりでいる。</p>	<p>家族会の場で、現在ホームでできるケア、対応できないケアを改めて再確認した。また、終末期においては、家族の協力が必須であることの説明を行うと同時に、意向の確認を状況に応じて行いたいとしている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時の対応マニュアルを作り、職員に周知している。また消防署より指導を受けたり、職員間で確認し合ったりしている。</p>		

35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回消防署より避難・消火訓練の指導を受けている。</p>	<p>年に数回、様々な状況を想定した自主訓練を行っている。昨年は、消火操法競技大会に初参加も行った。また、非常時の備えとして防災食（3日分×9食）と個人情報ファイルを準備している。</p>	<p>危険箇所の点検や火災想定訓練は多く行われているが、次に向けてのステップとして立地的にも大雨や土砂災害時の避難方法などを改めて話し合い、緊急時に備えることに期待したい。</p>
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉使いや声の大きさなど気になることがあれば、互いに注意したり、ミーティング等で対応の仕方など話し合っている。</p>	<p>「声かけ」は現在、職員の努力の目標にもなっており、お互い注意し合うようにしている。地域の言葉を上手く使いながら、その人に応じた個別の対応を行っている。</p>	
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>介助する時は自己決定しやすいよう声かけをしている。また分かりやすく説明したり、納得できるような話しかけをしている。</p>		
38		<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>だいたいホームの1日の流れに沿って過ごされているが、希望があればそちらを優先的に支援している。</p>		
39		<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>外出や行事のある日などは、本人に聞きながらきちんとした服装に着替えている。</p>		
40	15	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の好みや旬の食材を出来るだけ多く使った料理を作っている。野菜の筋取りや皮むき、オシボリ巻き、箸並べなど手伝って頂いている。</p>	<p>敷地内には菜園があり、新鮮で旬な食材が手に入る。また、テラスでは海を眺めながらバーベキューなども楽しむことができ、好評である。外食やお弁当を持っての外出も行われていた。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居者の個々の好き嫌いや食事摂取量を把握し、栄養のバランスを考えて作っている。水分補給もこまめに促している。</p>		

42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケアの声かけ・誘導をしている。一人で出来ない方には介助している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンに合わせてトイレへの声かけ・誘導をしている。</p>	<p>日々の立位訓練がスムーズなトイレ移乗になることで、利用者・職員の負担の軽減になっている。入眠を妨げないように上手くパッド等を使用しているが、なるべくオムツは使用していない。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>野菜やイモ類、ヨーグルト（毎日）を食事やおやつに多く使っている。また 下肢を動かす運動やテレビ体操を毎日行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人の希望や体調を優先的に聞いて入浴して頂いている。時々社協の温泉に入っている。</p>	<p>安全・安楽面を考慮し、浴室には手すりを増やし、回転し肘掛けのある椅子へ変更した。基本的に1日おきの入浴支援を行い、足湯に行ったり、季節に応じてゆず湯を楽しむこともできる。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜はそれぞれ好きな時間に就寝されている。乾燥しがちの時期は濡れタオルを掛けている。時々訪室し声かけしている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>入居者の服薬情報表を作成しており、服薬マニュアルに沿って支援している。本人の状態や変化は随時看護師・医師に報告している。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>野菜作りや野菜の皮むき、干し柿作りなどそれぞれ出来ることをして頂いている。また 手すり拭きや廊下掃きなど自ら手伝われている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買い物、外食、ドライブなど入居者の希望に合わせて出かけている。家族に協力をお願いして一緒に外出して頂くこともある。</p>	<p>車椅子使用の方も多いが、リフト車両の購入で、受診も含めて外出がスムーズに行えるようになった。外出できない日も、テラスに出て日光浴や外気浴を楽しまれている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人・家族の意思にまかせている。所持金のある方には、買い物時に誘導・見守りで支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話はいつでも自由に取次している。はがきや礼状なども出している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下・リビング・台所等に仕切りがなく、一目でわかるようになっている。また 季節に合わせて飾り付けしたり、温度・湿度に注意しながら、空調管理を行っている。</p>	<p>高い天井で開放感に溢れたリビングは大きな窓から海を眺めることができ、最高の場所である。利用者それぞれの空間を大切にされ、安心して過ごすことができる。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下の突き当たりに長イスを置いたり、リビングとダイニングが続いているので、好きな場所で過ごすことが出来る。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染みのあるものを持って来て頂いている。	使い慣れたものを多く持ち込むのではなく、本人がどれだけ安心して過ごせるかを大切にしている。一人ひとりに応じて、ぬいぐるみを置いたり、ポスターを貼るなど工夫がある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の動きに合わせてベッドの位置や手すりの増設など ひとりでも出来る環境づくりを心がけている。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)</p>	<p>1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>	<p>1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)</p>	<p>1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない</p>